

北京シンポジウム出席についての募金について

日本気象学会国際交流委員会

下記“北京シンポジウムについて”の中でのべられていますように、学会員小平信彦、増田善信両氏の北京シンポジウム出席に伴う諸経費を会員からの募金によって援助することになりました。当委員会では次のような募金要領で募金を行いたいと思います。去年の中国学術代表団の来日につづく学界員の訪中の機会でもありますので、この計画を是非成功させたいと思います。会員の御協力を切にお願いします。

1. 募金目的 会員2名の北京シンポジウム派遣の必要経費にあてるため
2. 募金目標 20万円
3. 募金要領 1口 100円
4. 募金締切り 昭和39年7月31日
5. 募金送付先 各支部宛

(関東地区のものは東京都杉並区馬橋4丁目気象研究所 窪田正八 気付で送付)

北京シンポジウムについて

今回、北京シンポジウム日本連絡協議会(会長 名大教授 坂田昌一)より、本年8月22日から10日間北京で開催される“北京シンポジウム”に気象学会として参加するよう、正式の要請がありました。

この北京シンポジウムは故ジェリオ・キューリー博士らの提唱によって作られた世界科学者連盟の東アジア地域センター(北京センター)と中国科学技術協会との主催によって、“アジア、アフリカ、ラテンアメリカ、大洋州の民族独立の獲得、擁護のための努力が科学者の社会的責任を全うし、科学事業の発展をもたらすゆえんであることに留意し、民族独立の獲得、擁護、民族経済と民族文化の発展、人民生活の向上、改善に関連する科学上の諸問題等を主題にシンポジウムを開く……”という趣旨で開催されるものです。

日本ではすでに昨年8月、北京シンポジウムの企画を聞きつたえた科学者団体、科学者有志が、北京シンポジウム日本連絡協議会(日連協)を結成し、昨年9月末22ヶ国の科学者が参加して開かれた北京シンポジウム準備会議に代表を送り連絡をおこないました。この準備会議には京都大学の井上清、法政大学の柘植秀臣両教授が出席し具体的な準備にとりかかりました。その席上でこのシンポジウムはあくまで純然たる科学討論会であり、何らかの政治的性質をもつ決議や声明は一切行わず、コミュニケーションも出さない、ことが確認されました。

一方日連協では提出論文、代表派遣準備などにあたってきましたが、現在参加団体は各専門分野、各地方約50団体に達しています。そして会長には坂田昌一(名大)副会長 井上清(京大)柘植秀臣(法大)福島要一(学術会議会員)宗像誠也(東大)が選ばれています。

気象部門では日連協からのよびかけに答えて去る2月下旬、気象部門連絡協議会(代表者、窪田正八)を結成

し日連協との連絡にあたってきました。この気象部門協議会には研究グループ懇談会、全気象労働組合が入っており、気象学会とは国際交流委員会を通じて接触を保ってきました。

気象部門協議会では前後4回にわたり、北京シンポジウムに提出する題目を討論しました。当初は

- (a) モンスーン、梅雨の解析的研究
- (b) 大循環、長期予報の研究
- (c) 観測通報の自動化の技術的社会的背景
- (d) 降水機構解明へのレーダーの利用
- (e) 氷晶核の研究

が話題にのぼり、さらに若し地方からの要望もあればそれも考慮することが決まりました。その後上記研究題目に関係する研究グループの事情もあり、又題目締切りの時間的制約もあって、今回は次の3つを提出しようということになりました。

- (1) 日本における数値予報
- (2) 日本の気象レーダー
- (3) 気象事業における機械化の技術的、社会的背景

このような準備が進められるなかで、北京シンポジウム日本連絡協議会より気象学会あては冒頭のような要請がきましたので、日本気象学会としても上述の計画を成功させるよう援助することになり具体的なことは国際交流委員会が行うことになり、春季総会でもこの旨報告されました。

気象部門からの代表派遣についても気象部門連絡協議会で論議されていましたが、派遣人員は2名(日本全体で約50名)に制限されたため、会員小平信彦(気象研究所)及び増田善信(気象庁予報部)の両氏を予定しました。なお増田善信氏が項目(3)の報告もかねることになりました。派遣のためには、最低1人あたり17万円(香港迄の旅費11万円その他雑費6万円)が必要であり、全体として35万円の募金目標をたてました。このうち全気象労働組合で15万円を分担してもらい、国際交流委員会では20万円の募金目標をきめました。

今回のシンポジウムは(1)気象学を総合的に討論し、問題点を明らかにし、(2)前記諸地域との将来にわたる学術交流を深めるための第1歩として大きな期待がもたれています。さらに、来年度以降は各地域、各分野(観測器械、降水機構、季節風や梅雨の解析的研究、農業気象その他)にわたって企画される趨勢にありますので、会員の御協力をお願いします。

なお参考までに各国の状況をつけ加えますと次のようになっています。参加国は40ヶ国以上、参加人員は中国を除いて250人ないし300人に及ぶといわれています。中国からは60人ぐらいが参加し気象部門からは

- (1) 大気大循環 (2) 防風林の諸問題 (3) 地球化学の3つの題目が非公式に連絡されています。